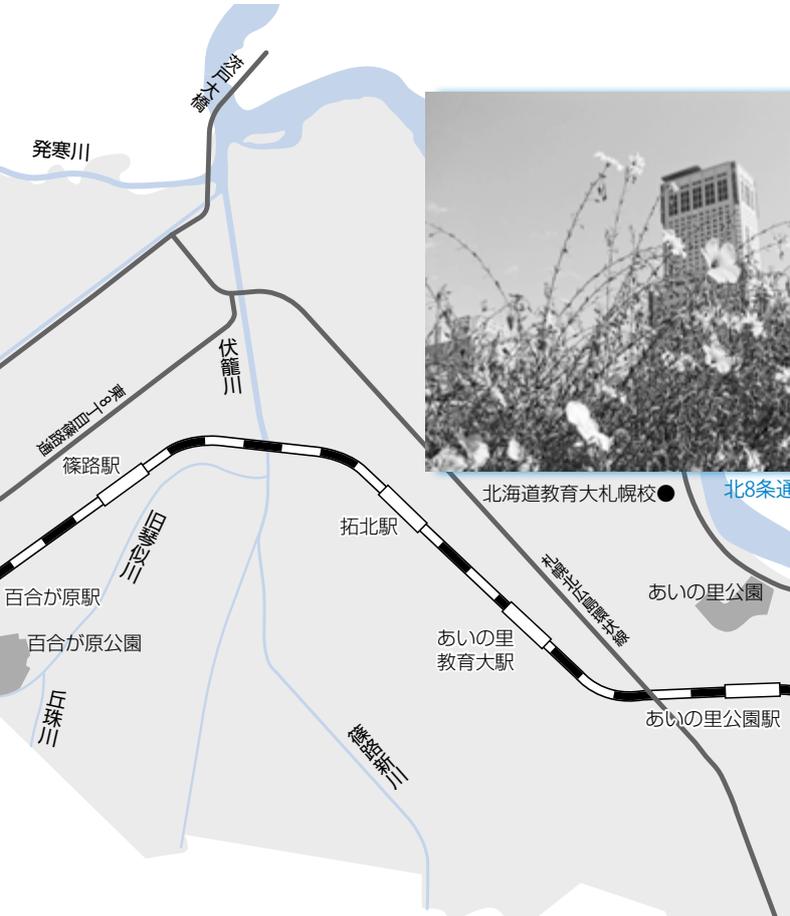


まちづくりやボランティアなどに参加している地域活動の担い手をシリーズで紹介します

「亜麻」のみち



北海道教育大札幌校 ● 北8条通を彩る亜麻の花①

北区では、明治から昭和の中ごろまで、現在の麻生町で製麻工場が操業、原料となる亜麻の栽培を含め、亜麻産業が栄えていました。

今月は、当時をしのばせる亜麻の花でまちを飾ろうと、北区が進める「亜麻のフラワーロード事業」に取り組んでいる地域を紹介します。

①北8条通

北8条通周辺（現在の東区）には、かつて製麻工場やビール工場など、当時の日本を代表する工場がありました。この歴史にちなみ、北8条通（東区含む）を繊維の原料「亜麻」とビールの原料「ホップ」で飾り、地域を活性化しようと呼びかけるのが、市民グループ「A.M.A.サポーターズ倶楽部（走川貴美代表）」の呼びかけに賛同した地域住民や地元企業などが、数年前から毎年、同通の植樹帯に亜

②麻生地区

麻などを植え「北8条通アマトホップのフラワーロード」づくりに励んでいます。「歴史を大切にしながら、目標に向け地域が一つになる、すばらしい活動ですね。来年もぜひ参加したいです」と語る参加者。このまちの亜麻のみちづくりは、これからも続いていきます。

めています。

麻生駅前町内会（大門隆司会長）が昨年に続いて、西5丁目樽川通に約5百株の亜麻や花苗を植えたほか、地域の三世代交流広場「Café 亜麻人」に集まった親子が、麻生駅の駐輪場前に設置されたプランターに亜麻の種を植えました。

なお、同地区では、商店街が中心となつて亜麻と「食」を結びつけたイベント（次ページ）を毎年開催、地域を盛り上げています。

町名に残る亜麻の足跡

明治後期に全盛期を迎え隆盛を続けた亜麻産業も昭和20年代に入ると、原料の高騰や化学繊維進出の影響を受け、ほどなく終焉を迎えます。

昭和32年に帝国製麻琴似製線工場が閉鎖、跡地の宅地化が決まると、住民らは工場ゆかりの「麻」を町名として後世に残そうと奔走しました。この思いが実を結び、昭和34年4月「麻生町」が誕生、現在まで発展を続けています。



昭和18年ころの帝国製麻琴似製線工場